「自主自律の学び」を研究・支援する

TOKYO KASEI UNIVERSITY

東京家政大学 学修・教育開発センター

クレッド通信
2015.3

CRED通信 02

Center for Research and Educational Development

一年生調査 結果速報
大学の今を知り、未来を考える P.4～5

看護学科のFD
看護実践力を育てる ～日々の大学生活で学ぶ～ P.7

第1回 東京大学FFP連携事業
教員と学生が共に創造する、よりよく「伝わる」授業 P.2

第2回 FDカフェ
魅力的な授業づくりへの方向性を探る P.3

私のFD
学生の学ぶ力を信じる P.6

お知らせ
活動記録 2014.04－2015.03 P.8

第1回 東京大学FFP連携事業【ミニレクチャイベント】

平成26年12月18日（木）14：50～17：00　／　162B講義室（16号館2階）

教員と学生が共に創造する、よりよく「伝わる」授業

12月18日（木）、東京大学FFP（Future Faculty Program）との連携事業として、ミニレクチャ・イベントが開かれた。東京大学学際情報学府博士課程加瀬郁子さんによる講義「怪しい科学の見分け方、付き合い方」の後、同プログラムを担当する栗田佳代子特任准教授による講演と、参加者によるディスカッションを行った。教員・学生多数の出席を得て、イベントに続き開催されたFDカフェまで、活発な意見交換が行われた。

東京大学FFPは、Future Facultyの名前の通り大学教員を目指す院生を対象としており、授業「大学教育開発論」を中心として、教育に関する知識の習得と技術の研鑽の機会を提供している。今回のイベントはこのプログラムへの協力として、修了生が実際に授業を行う場所を提供し、また、アクティブ・ラーニングを利用した授業の実際例を視察するために行われた。

講師の加瀬氏は、専門の科学技術社会論・科学コミュニケーション論の立場から、時に重篤な実害を引き起こすこともある「怪しい科学」の実例を紹介しつつ、それらを正しく評価し、批判するための考え方としてのクリティカル・シンキングの手法について解説した。「怪しい科学」には、効果が過剰に見積もられているものと、全く根拠のないものがあること、その2つを見分けて適切に「付き合う」ためにはどのような点に注意し、疑い、評価することが必要なのかを、グループワークを通して学生に考えさせる興味深い講義であった。

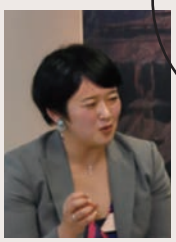
この授業には長い事前準備があった。栗田氏による講演『授業作りの裏側』で「最初に院生が作って来た40枚のスライドのうち、残っているのは表紙を含めた3枚のみ」と紹介されたように、準備段階では①対象とする学生に対して授業の設定（前提知識量、興味関心の方向）の設定は適切か　②授業の達成目標は明確でワークはその目標に対して効果的か　という点に関して、徹底的にチェックされ、推敲が重ねられた。最終的に披露されたレクチャは大幅に改良されており、目を見張るものだった。これらの改善のための勉強会や当日のTAとしてのサポートなど、東大FFPの修了生の積極的な協力もこのプログラムに寄与している。

FFPチームの熱意に応え、家政大の学生の真価が発揮された。授業内ワークに鋭く的確な答えを出し、活発にディスカッションをする姿を見て、普段自分がこれほど学生の興味を引き出す授業作りができているかと考えさせられた。質疑応答の場面では、家政大ならではの様々なバックグラウンドを持つ学生・教員からの建設的な提案や質問がなされ、熱のこもった議論はFDカフェに場所を移して続いた。

授業を作り上げていく過程を実地に見ることで、一人の駆け出しの教員として学ぶところが多い貴重な経験であった。また、他大の学生に学修の機会を提供することで大学間の連携を深める事業であり、以降とも是非継続すべきであると考えた。

Report Part1

並木 有希
（なみき ゆき）



本学英語コミュニケーション学科講師（アメリカ文化研究室）、学修・教育開発センター専門委員。
平成24年度本学着任 / 研究分野：近現代アメリカ小説、都市と文学 / 著書：平成26年度NHKラジオ講座『英語で読む村上春樹』テキスト解説

学生のために教職員は どんなことができるだろう？

第２回 ＦＤカフェ

平成２６年１２月１８日（木） １７：１０ ～１８：４０ ／ ルーチェ（１６号館１階）

魅力的な授業づくりへの方向性を探る

ミニレクチャイベント終了後は、昨年度に初めて開催された「ＦＤカフェ」の第２回が17時10分より行われた。

カフェには、落ち着いたムードの音楽が流れ、東京大学ＦＦＰメンバーの方々や、イベント参加学生と本学教職員との和やかなコミュニケーションの場が繰り広げられた。

あるテーブルでの、東大ＦＦＰを既に終了した生体工学を学ぶ大学院生と、本学教員との間に出た会話から、コメントの幾つかを取り上げる。

●当日のミニレクチャの参加を受けて

- 授業の内容がいっぱいになるのは何故か
- 何を切り落とすかがポイント。授業は、導入で興味や目標を定めて展開・まとめへと移るので、その目標等に合わないものは削除する対象となりえる
- 学生に伝えたいものと、伝わるものが違うということが往々にしてある
- 研究の発表と授業も、違いがある

●今後のＦＤ活動を進めていくにはといった話題に移って

- ＦＤを専門とする、ＡＤＤＩＥモデル（Analysis / Design / Development / Implementation / Evaluationの循環）を理解した専任教員がほしい
- （一人の教員につき）全ての授業でなくても、一つの授業について（ＡＤＤＩＥモデルに当てはめる研修を）やれば、他の授業もそのようになるのではないかと思う
- ＦＤを推進するための、教職員同志でのコンセプトレベルでの共感が必要
- 教員が他学科で武者修行するというのが良いのかもしれない
- 文科省はプログラムの形として示してきたが、やる人間が意識を変えないと、プログラムを体系化できない
- 異文化交流や、別学科同志の交流等、これらをつなげるのがＦＤであろう
- この冬（環境教育学科の）忘年会を３・４年生全員と実習でお世話になる企業の方々を交えて行う。異文化交流には仕組みと仕掛けが必要

そして、カフェは19時前、井上センター所長の挨拶で中締めとなった。挨拶では、本日のイベントの講師を指導されている、東京大学・栗田先生の３Ｋの言葉「忌憚なく・敬意をもって・建設的に」が引用された。

この言葉によって、大学組織の成長のために進むべき道が示されたと感じた教職員は決して少なくないはずである。

◆「FDカフェ」とは、東京家政大学の教職員が日頃の教育や業務に関する悩みや喜びなどを話し合う場です。板橋の銘菓（最中やお煎餅、バウムクーヘン）などをつまみながら、ざっくばらんに語りあうことで、ヒントや意欲を得る場で す。 今回は東京大学FFPの後に実施されたため、懇親会のような雰囲気にもなりましたが、今後も「FDカフェ」は教職員の情報交換のやわらかな場として開催される予定です。（※編集部より）

Report Part2

鈴木 由子
（すずき ゆうこ）

本学服飾美術学科講師（服飾造形第７研究室）、学修・教育開発委員。
千葉県立御宿家政高等学校家庭科教員、本学助教等を経て、平成25年度着任 / 研究分野：ファッションデザイン・立体裁断・パターンメーキング

大学の今を知り、未来を考える

一年生調査 結果速報

大学IRコンソーシアムの共通調査とは

CRED通信01号でお知らせしたとおり、東京家政大学は今2014年度から大学IRコンソーシアムに加入しました。大学IRコンソーシアムの会員大学（※1）は、毎年10～12月の間に共通の調査を実施し、他大学の結果と相互比較することで、自大学の特徴や課題を明らかにすることができます。

共通調査には1年生を対象とする一年生調査と2年生以上を対象とした上級生調査があります。上級生調査を何年生で実施するかは各大学に任されており、2、3、4年すべての学年で実施する大学もあれば、特定の学年だけで実施する大学もあります。東京家政大学では、2014年度と2015年度は一年生調査だけに参加し、2014年度入学者が3年生になる2016年度以降、3年生での上級生調査も実施する予定です。

一年生調査の設問

一年生調査は24の設問から構成されており、それらは大きく5つに区分されています。

Ⅰ. 学生自身についての設問

学籍番号、通学時間、居住形態など。

Ⅱ. 入学後の学習状況についての設問

大学での授業経験、授業や授業以外の学習状況、いろいろな活動に費やした時間、入学後の変化など。

Ⅲ. 英語の学習状況についての設問

聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力それぞれの入学時と現在における自己評価など。

Ⅳ. 大学生活に対する考えや満足度についての設問

学生生活の充実度、教育内容や学生支援制度についての満足度、希望する進路など。

Ⅴ. 入学前についての設問

入学試験の種類、高校の時の成績、高校3年生の時の活動など。

一年生調査の実施

本学では、2014年11月4日から17日までの2週間に、全学科の必修授業の一部をお借りして、一年生調査を実施しました。貴重な時間を割いて協力してくださった先生方、学生の皆さんに感謝します。おかげさまで、約95%という高い回収率でデータを得ることができました。ただ、実施時間を約20分と見込んでお願いしたのですが、ていねい、慎重に回答し、30分を超える時間を要した学生もありました。次回実施の際の反省材料です。

調査結果の報告について

大学IRコンソーシアムの調査では、任意で学籍番号の記入を求めています。また、会員大学は、学生のGPAなどのデータを大学IRコンソーシアムに登録します（※2）。そのため、学籍番号を手掛かりとして、1年生のときと3年生になってからの変化、共通調査の結果とGPAの関連などを分析することができます。分析は大学IRコンソーシアムのサーバー上で行われるので、会員大学はサーバーにログインして、自大学と他大学の結果を比較しながら見ることができます。ただし、2014年度実施の調査結果を見られるようになる時期は、2015年7月以降が予定されて

【表1】「入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか」という設問への回答割合

東京家政大学（2014年）	大きく増えた	増えた	変化なし	減った	大きく減った	無効回答	計
A. 一般的な教養	4%	61%	30%	5%	0%	0%	100%
B. 分析力や問題解決能力	2%	43%	49%	5%	0%	0%	100%
C. 専門分野や学科の知識	33%	59%	7%	1%	0%	0%	100%
D. 批判的に考える能力	2%	29%	66%	3%	0%	0%	100%
E. 異文化の人々に関する知識	6%	38%	53%	3%	0%	0%	100%
F. リーダーシップの能力	2%	17%	73%	7%	1%	0%	100%
G. 人間関係を構築する能力	11%	49%	35%	5%	1%	0%	100%
H. 他の人と協力して物事を遂行する能力	11%	51%	34%	4%	0%	0%	100%
I. 異文化の人々と協力する能力	2%	12%	82%	4%	1%	0%	100%
J. 地域社会が直面する問題を理解する能力	2%	24%	69%	4%	0%	0%	100%
K. 国民が直面する問題を理解する能力	2%	28%	65%	4%	0%	0%	100%
L. 文章表現の能力	3%	31%	55%	10%	1%	0%	100%
M. 外国語の運用能力	2%	18%	51%	23%	6%	0%	100%
N. コミュニケーションの能力	8%	45%	43%	5%	0%	0%	100%
O. プレゼンテーションの能力	3%	22%	71%	4%	0%	0%	100%
P. 数理的な能力	0%	10%	54%	27%	8%	0%	100%
Q. コンピュータの操作能力	12%	62%	25%	1%	0%	0%	100%
R. 時間を効果的に利用する能力	8%	42%	41%	8%	1%	0%	100%
S. グローバルな問題の理解	1%	17%	78%	3%	1%	0%	100%
T. 卒業後に就職するための準備の程度	4%	36%	58%	2%	0%	0%	100%

【表2】「あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか」という設問への回答割合

東京家政大学（2014年）	ひんぱんにあった	ときどきあった	あまりなかった	まったくなかった	無効回答	計
A. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	28%	36%	24%	12%	0%	100%
B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	34%	44%	20%	3%	0%	100%
C. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する	19%	51%	26%	3%	1%	100%
D. 授業の一環でボランティア活動をする	1%	5%	20%	74%	1%	100%
E. 学生自身が文献や資料を調べる	23%	54%	18%	4%	1%	100%
F. 定期的にミニテストやレポートが課される	52%	43%	5%	0%	0%	100%
G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	9%	34%	38%	19%	0%	100%
H. 学生が自分の考えや研究を発表する	10%	43%	36%	12%	0%	100%
I. 授業中に学生同士が議論をする	14%	39%	32%	14%	0%	100%
J. 授業で検討するテーマを学生が設定する	2%	13%	39%	46%	0%	100%
K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	2%	20%	45%	33%	0%	100%
L. 取りたい授業を履修登録できなかった	2%	15%	27%	56%	0%	100%
M. 出席することが重視される	68%	28%	4%	0%	0%	100%
N. TAやSAなどの授業補助者から補助を受ける	6%	19%	32%	42%	2%	100%

井上 俊哉（いのうえ しゅんや）
本学心理カウンセリング学科教授（心理統計研究室）、人文学部長、学修・教育開発センター所長。
平成3年本学着任 / 研究分野：教育心理学、心理統計学 / 著書：『メタ分析入門』（東京大学出版会）、『心理検査法入門』（福村出版）、『心理統計の技法』（福村出版）

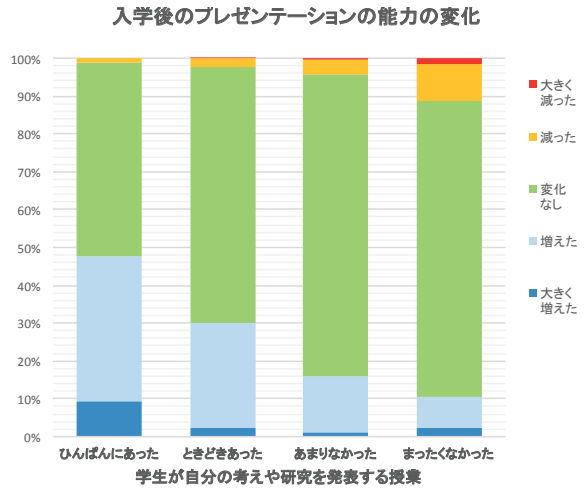
おり、しばらくの間、待たなければなりません。そこで、本学のデータについては、CREDで分析を始めています。結果のほんの一部ですが、ここで報告させてもらいます。学部あるいは学科別の分析も進めていますが、今回は、東京家政大学全体での「入学後の能力や知識の変化」「大学での授業経験」の集計について紹介します。

他大学との比較は、7月まで待たねばなりませんが、ここでは、「IRネットワーク報告書2013」（北海道大学高等教育推進機構・編集/発行）に掲載されている、8大学（※3）の2013年度一年生調査の結果を比較資料として使います。8大学の中には国立大学や共学の大学が含まれており、比較の対象として適切かどうか検討の余地がありますし、学生の変化や経験は4年間を通して確かめなければなりません。ここでの結論は確定的なものではないことをお断りしておきます。東京家政大学における2014年調査の回答数は1,547、8大学の2013年調査の回答数は10,224です。

入学後の能力や知識の変化

一年生調査には、20個の能力や知識について、「入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか」と問い、「大きく増えた」「増えた」「変化なし」「減った」「大きく減った」の5択で回答を求める設問があります。東京家政大学における20項目の回答割合の分布は表1の通りでした。「大きく増えた」「増えた」という回答を合併して、その割合を東京家政大学と8大学で比べたところ、「専門分野や学科の知識」、「卒業後に就職するための準備の程度」などで、東京家政大学生の方が増えたという回答が多く得られました。一方、「批判的に考える能力」「外国語の運用能力」「プレゼンテーションの能力」などでは、増えたという回答が東京家政大学で下回っていました。これらの能力は、「学問領域の区別なく大学生が身につけるべき汎用的な能力（ジェネリックスキル）」として近年重視されている能力と重なるものです。とくに、「プレゼンテーションの能力」について、「大きく増えた」「増えた」の回答が東京家政大学ではそれぞれ3%、22%であるのに対して、8大学では7%、44%と、大きな差がありました。

【図1】「学生が自分の考えや研究を発表する授業の経験頻度」と「プレゼンテーション能力の入学後の変化」の関連



大学での授業経験

入学後の変化は、大学での授業経験と関係しているでしょうか。14個の項目を示して「あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか」と問う設問への東京家政大学生の回答の割合は表2の通りです。「ひんぱんにあった」「ときどきあった」という回答の割合が8大学より東京家政大学で高かったのは、「実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ」「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」などの項目でした。「専門分野や学科の知識」や「卒業後に就職するための準備の程度」で「増えた」という回答が多かったことと符合します。

反対に東京家政大学で「ひんぱんにあった」「ときどきあった」という回答割合が低かった項目は、「学生が自分の考えや研究を発表する」「授業で検討するテーマを学生が設定する」などでした。

「IRネットワーク報告書2013」には集計表は載っていますが、データは使えませんから、8大学については「入学後の変化」と「授業経験」の関連を分析できません。そこで、東京家政大学生の調査データだけを用い、「プレゼンテーションの能力（入学後の変化）」と「学生が自分の考えや研究を発表する（授業経験）」を取り上げて、両者の関連を調べてみました。「学生が自分の考えや研究を発表する」授業の経験頻度が高い方から順に、「プレゼンテーションの能力」が「大きく増えた」という回答が9%、2%、1%、2%、「増えた」は38%、28%、15%、8%でした（図1）。「自分の考えや研究を発表する」授業経験は、「プレゼンテーションの能力」を向上させるといえるのかもしれません。

今後さらにいろいろな角度からの分析を続け、東京家政大学の今後を考える議論の材料を提供していきたいと考えています。

※1）2014年10月現在の会員大学数は、39です。
※2）大学IRコンソーシアムへの学籍番号の登録は、暗号化してから行います。
※3）北海道大学、お茶の水女子大学、琉球大学、大阪府立大学、玉川大学、同志社大学、関西学院大学、甲南大学の8大学です。

学生の学ぶ力を信じる

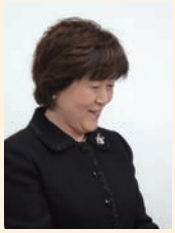
教育福祉学科　上野 容子

教育福祉学科は、「社会教育」「社会福祉」「心理」の３分野を幅広く学べる点を特徴としている。各分野とも多様な人達のライフサイクルやライフイベントに直接関わり、ニーズに応じた援助や支援、それらを究めていくエキスパートの養成を目的としている。一年次で３分野の基礎科目を学ぶことにより人と人の生活を多角的に捉える視点を習得し、２年次から各分野の専門科目、そして３・４年次で、各分野を選択し、ゼミ（演習）や実習をとおして座学と実学とを連動させ、４年間で各分野の習得過程を辿ることができるよう構成されている。その学びをとおして、関連分野のフォーマルな専門家と共にチーム力を発揮して活躍できる一員として、またインフォーマルなボランテイアや様々な立場の人達との関係性を構築し、専門家との調整役（コーディネーター）や推進役も果たしていける人材として社会に輩出している。

私は、社会福祉分野における精神保健福祉分野（国家資格である精神保健福祉士養成も含む）を担当している。精神疾患は、イギリスの政策モデルから、日本でも５大疾患のひとつとして重要視され、医療支援だけでなく多角的な生活支援が求められている。また「心の健康」と称し、精神保健（予防）の重要性も認識されてきている。

当学科の精神保健福祉科目は、非常勤講師のご協力の下、一年次に基礎論として「生活と福祉」「精神保健福祉論」「精神保健学」「精神医学」、２年次に技術論として「精神保健福祉援助技術各論」「精神科リハビリテーション学」、３年次に「精神保健福祉援助演習（ゼミ）」、３・４年次の２年間で210時間以上の「精神保健福祉援助実習（医療保健機関・地域の福祉サービス事業所）」を履修できるよう構成している。多数の学生はこれまで精神疾患を有している人達と接したことが無い時点から学ぶ。学びの過程で誰もが罹患し得る可能性があることが理解でき、疾患と生活との関連性に関心を向けていく。「生活と福祉（当学科履修生必修科目）」で、エコマップ（生活状況図）の作成をとおし、自身の生活に関心を向けるとともに、人を「生活者」として捉える視点を身につける。エコマップは、混沌とした悩みを抱えている時や問題の根源を探る時などに作成すると客観的に自分の生活を捉えることもできる。一年次と４年次に作成したエコマップを比較し発表し合う機会を設け、お互いに４年間の学生生活の変化を確認し合い、進路も含め今後の生活設計を立てていく貴重な機会となっている。また、実習を通して、学生は教員の私が目を見張るほど元来持っている「学ぶ力」を発揮し大きく成長をする。実習報告は一人30分程の時間をかけて発表し、各実習先の情報共有と専門職として自己覚知を促す貴重な機会となっている。

学ぶ力を高めていくために必要な文章の書き方、読書の勧め等はもちろんのこと、それに関心を示せる契機を提供し、自身が主体的に学ぶ意欲を高めていける経験を身につけられるような指導をこれからも心がけていきたい。



上野 容子（うえの ようこ）
本学教育福祉学科教授（精神保健福祉研究室）。精神科領域のソーシャルワーカーとして精神科病院、精神障害者の地域生活支援事業に関わり、法政大学、日本社会事業大学、立教大学、明治学院大学、駒澤大学を経て、平成13年本学着任 / 研究分野：精神保健福祉 / 著書：『精神障害リハビリテーション学』（共著）（金剛出版）、『こころの科学　精神保健福祉特集』（共著）（日本評論社）

看護実践力を育てる ～日々の大学生活で学ぶ～

看護学科　谷岸 悦子

「もしもし大丈夫ですか？」「呼吸なし」「誰か来てください」「119番をお願いします」「AEDをお願いします」「1、2、3、4・・・」。日本赤十字社救急法基礎講習会の指導員の声が狭山キャンパスに響き渡りました。

看護学部生71名、子ども学部生３名が参加したこの講習会は、看護学部が企画した“人の命を守る”ための学習の一環です。４年次に履修する科目「救急看護法」「災害看護」に連動する学習でもあります。

救急時、災害時の看護は、健康レベル、疾病を問わず、年齢、性別また病院、家庭、地域という場を越えます。さらに、看護職は医療チームとして活動するだけではなく、保健・福祉のチームや行政など多職種との連携・協働が求められます。平時とは異なる非常事態において看護職に求められる資質・能力は、知識と経験を積み重ねていく中で培われていきます。

看護基礎教育では、机上の学習とともに学内演習、シミュレーション・実習と段階的な学習が必要になります。

そこで、救急看護も災害看護もいざというその時に「行動」できるための備え、準備として、看護学、医学に関する知識・技術を学び始めたばかりの時期に、看護学部生109名が「AED」を使うことができる、つまり心肺蘇生ができることを目標に講習会を開催しました。受講者全員が講習最後に検定（筆記試験・技術試験）を受けて、「基礎救急法適任証」を受け取りました。学習状況を把握するために実施したアンケートには、受講者の約70%が救急法の基本の知識である心肺蘇生（一次救急処置）、一次救急処置（BSL）、AEDの取扱いを理解できた、約95%が実施できるという結果が示唆されています。また、不慮の事故や急病人に遭遇した時に今回の学びを生かすことができると約90%が応えています。そして、CPRを学ぶ機会を今後も持ちたいと約90%が回答していることから、シミュレーション学習による一定の効果は得られたと評価できます。

２年次は、次の段階（レベル）の救急法を、また、１年次に講習会を受けられなかった学生には、基礎コースを受けられるように企画をしています。さらに２年次からは正課学習で、医療施設内での救急時の対応つまり、医療職がいる、医療機器がある場での専門職としての救急時対応・看護を学んでいきます。３年次には、臨地実習でより現実的に具体的に学習を深めていくことになります。この成果をもって４年次の救急看護法、災害看護では、より実践的な場面を想定した演習を行います。そこでは、看護職に必要な看護実践力を検証し、看護専門職として学生たちが自己の課題を明らかにできることを期待しています。

日常の生活を通しながらも看護に必要な知識と技術を学習・体験する場や救急看護や災害看護を意識化する機会作りを計画しています。これは、学生一人ひとりが、自分の生活を基盤に看護者としてまた、地域社会で生活する人としての力を磨く学習環境になると考えています。

谷岸 悦子（たにぎし えつこ）
本学看護学部看護学科准教授（看護学科研究室8）。
日本赤十字武蔵野短期大学、日本赤十字九州国際看護大学、杏林大学を経て、平成24年本学着任 / 研究分野：看護技術、看護基礎教育、災害看護 / 著書：『演習で学ぶ災害看護』（編集・共著）（南山堂）、『実践臨床看護手技ガイド第２版』（共著）（文光堂）

活動記録 2014.04－2015.03

行事	2014年6月18日	大学IRコンソーシアム加入
	2014年8月1日	第1回 学生と教職員の交流会
	2014年9月12日	FD勉強会（講師：大阪大学教育学習支援センター 佐藤浩章 副センター長）
	2014年11月4日～17日	「一年生調査」実施（大学IRコンソーシアム）
	2014年12月18日	第1回 東京大学FFP連携事業 ミニレクチャイベント
		第2回 FDカフェ
	2015年2月12日～27日	カリキュラム・ツリー学内公表（リサーチウィークスポスターセッション）
	2015年2月25日	東京家政大学教学IR事始め（リサーチウィークスFDフォーラム）
出版・広報	2014年5月	CREDレター No.1：「CRED新設のごあいさつ」（井上俊哉所長）
	2014年6月	CREDレター No.2：「e-kaseiの可能性－少人数授業における活用体験から－」（平山祐一郎副所長）
	2014年7月	FD活動報告No.6：平成25年度のFDに関する活動報告
		緑窓会報 第92号：CRED紹介（井上俊哉所長）
		学園新聞　TOKYO KASEI PRESS 第66号：CRED紹介（井上俊哉所長）
		CREDレター No.3：「第19回FDフォーラムに参加して」（仲谷ちはる主任）
	2014年9月	CREDレター No.4：「アメリカの大学教育～ハワイ大学マノア校編」（渡部晃正准教授）
	2014年10月	CRED通信No.1：「学生と教職員の交流会/教職員研究会/私のFD/造形表現学科のFD/お知らせ」
	2014年11月	FDネットワークつばさ　週刊・授業改善エッセイ（平山祐一郎副所長）
	2015年1月	GREEN LEAVES 64号（後援会会報誌）：CRED紹介（井上俊哉所長）
	2015年3月	CRED通信No.2：「第1回 東京大学FFP連携事業/第2回 FDカフェ /一年生調査 結果速報/私のFD/看護学科のFD/お知らせ」
		CREDレター No.5：「学び」を学ぶ　～『スタートアップ エクササイズ』の活用～（新井哲男図書館長）
出張歴	2014年6月28日	Benesse主催 大学シンポジウム2014「学生が成長する教学改革」 @國學院大学：仲谷ちはる主任
	2014年8月5日	2014年度IRシンポジウム　北海道大学他7大学主催「IRの導入と教学評価体制」 @甲南大学：井上俊哉所長
	2014年8月6日	私立大学情報教育協会主催平成26年度教育改革FD/ICT理事長・学長等会議 「大学力強化に向けた全学的改革行動への取り組みを考える」 @明治大学：井上俊哉所長
	2014 年10月21日	私学高等教育研究所 第60回公開研究会「学生調査とIR」 @ホテルメトロポリタンエドモント飯田橋：井上俊哉所長
	2014年12月8日	平成26年度「一年生調査」読込作業 @同志社大学：仲谷ちはる主任
	2014年12月10日	大学IRコンソーシアム主催「2014年IRシステムデータ登録講習会」 @甲南大学ネットワークキャンパス東京：井上俊哉所長、秋庭慎夫主任、仲谷ちはる主任
	2014年12月13日	第33回大学職員 人間ネットワーク「わたしたち職員が"育つ"学びとは」 @椙山女学園大学：仲谷ちはる主任
	2015年2月28日、3月1日	大学コンソーシアム京都主催「第20回FDフォーラム」 @同志社大学：平山祐一郎副所長、並木有希専門委員、ランブレヒト・マティアス講師

CRED からの おすすめ

● **メーリングリストへのご登録のおすすめ**

- 京都大学高等教育研究開発推進センター　http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/　『あさがおメーリングリスト』

● **参考になるホームページ**

- 大学コンソーシアム京都　http://www.consortium.or.jp/
- 大阪大学教育学習支援センター　http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/
- 大学IRコンソーシアム　http://www.irnw.jp/
- FDネットワークつばさ　http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/tsubasa/

2015年3月発行　編集＆発行：東京家政大学 東京家政大学短期大学部　学修・教育開発センター
構成＆DTP：東京家政大学 ヒューマンライフ支援センター　坂本理恵
〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1　TEL：03-3961-0284　E-mail：cred@tokyo-kasei.ac.jp